

2023 年度

2/1 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、問題冊子に受験番号・氏名を記入します。
次に、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は45分です。
4. 問題は、1ページから14ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の8割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

受 験 番 号	氏 名
A	

1 次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 彼女のかのじよカイツカイツさに救すわれた。

2 兄あにはいつもカクシカクシンをついた発はつ言ごんをする。

3 タンジタンジョウビョウビのお祝いわいをする。

4 クラスのだれよりも早く走はれるというジジフフがああった。

5 追おいつめいつめられて、万ばん事じキキュウユウすかと思おもわれた。

6 思おもいもよよららない筋きん書しききにおおどろどろいた。

7 夜よが明あけけない訳わけががない。

8 試し合あひの展てん開かいは部ぶ員いんたたちを大おいいに発はつ奮ふんささせた。

② 1～5の——線をつけたことばについて、性質・働きが同じものを、後のア～カの中から一つずつ選び、記号で書きなさい。
ただし、記号はそれぞれ一度しか選べません。

1 頂上からの景色の美しさにうっとりしてしまった。

2 こちらはどなたのマフラーですか。

3 せっかくなのでゆっくり歩いていきましょう。

4 もしもし、共立女子中学校ですか。

5 あらゆる本から彼女は学んでいるようです。

ア それだけは、いかなる理由があっても、認めません。

イ はるばるニュージールランドからおこしいただきありがとうございます。

ウ そろそろ、ここで腰をかけて休けいをお願いします。

エ あの舞台は最近話題の人が多く出演していて、きつとおもしろいね。

オ クラスの代表として責任の重みを感じている。

カ さあ、お腹がすいてきましたから夕食にしませんか。

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

いつもの長い夜

三角 みすみ
みづ紀 き

夕食をおえてから

母が丁寧ていねいに紅茶を淹いれる

そろいのティーカップと

バラの絵のティーポット

父が仕事先でもらってきた

①A どこか 外国のクッキーも

テーブルに 置かれていく

無口なまま

テレビを観みていたら

①B どこか 外国では大量にひとが死に

どこか 外国では教会が燃えていた

1 ———線①A・B「どこか」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

A Aは親しみを感じる「どこか」、Bは遠い存在である「どこか」を想像している。

イ AもBも現実には存在しない、想像上の「どこか」を思いうかべている。

ウ Aは近くにある「どこか」を、Bは遠く離れた場所にある「どこか」を想定している。

エ Aはどこでもいい「どこか」、Bは別の世界だと感じられる「どこか」を指している。

オ Aは全く知らない「どこか」、Bはよく知っている「どこか」だと考えている。

2 ———線②「部屋に戻って辞書をひく」とありますが、どういうことを表現していますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

A 「わたし」が中学生としていつも通りに過ごしているということ

イ 「わたし」が「どこか」に行き人々を救うための策を練っているということ

ウ 不安を覚えた「わたし」が気をまぎらわせようとしているということ

エ 「わたし」にとつてすべてが真実でないように感じられたということ

オ 「わたし」がテレビで観た内容にひどく興奮しているということ

3 ———線③「同じような制服を着た／同じような背丈のひと」とありますが、どういうことを表現していますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

A 同じである点が多いということに、「わたし」が安心感をいだいているということ

イ 「どこか」の「女の子」に、少しでも近づきたいと「わたし」が願っているということ

ウ 同じであるのは外見だけだということに、「わたし」はさびしさを感じているということ

エ 「どこか」の「女の子」と自分がちがうことを「わたし」はほこらしく思っているということ

オ 共通点のある「どこか」の「女の子」が自分と異なる人生を歩んでいると感じているということ

ますます無口になって

紅茶を飲み干したら

その どこか を考える

② 部屋むとに戻って辞書をひく

どこか には

わたしと同じ中学生の

女の子もいるんだろう

③ 同じような制服せいふくを着たく
同じような背丈せたいけのひと

お向かいの犬が吠ほえている

夜の鳴き声は

④ 夜を長くする

『どこにもあるケーキ』ナナロク社 による

4 線④「夜を長くする」とありますが、どういうことを表現していますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 「わたし」が「どこか」の向こうに夜明けのような明るい雰囲気ふんいきを感じているということ
イ 犬の鳴き声のため現実にはひきもどされ、それまでの思考がとぎれ、孤独こどくに過すごしているということ

ウ 夜の鳴き声によって「わたし」のものが引き立てられ、長く続いていくということ
エ どこまでもひびく犬の鳴き声のように、思いがだれかに伝わるような将来を夢見しているということ

オ 長い夜の中、犬の鳴き声が消えていくのにつれて「わたし」の悲しみが消えていくということ

5 次の会話文は、この詩について鑑賞かんしょうしているものです。□に入る言葉としてふさわしいものを後のア～オの中から一つ選び、記号で書きなさい。ただし、□には全て同じ言葉が入ります。

共子…いつもの長い夜だけれど、いつもと少しちがうのかな、という感じがしたわ。

立子…自分のいるところの「いつも」と、「どこか」の「いつも」を比べているとも読めないかな。

共子…□であって□でない、それでも実際に起きていること、というところに、不思議さや何か引っかけかかりを感じているのね。

立子…自分の□にも、「どこか」の□にも違和感いわかんのようなものを覚えて、だからこそ、想像さうぞうの像さうぞうが続くような感じかな。

ア 不幸 イ 日常 ウ 悲しみ エ 想像 オ 戦い

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

先日、ひさしぶりでヘレン・ケラーの映画注1『奇跡の人』を見ました。一九六二年公開の映画ですから、今から五十三年以上前に作られたということになります。見た人もいるかもしれませんが、話には聞いたこともあるかもしれません。この映画の印象的な場面は、なんと言っても、耳が聞こえず、目も見えず、口もきけないヘレンが、サリバン先生と出会い、最後にものには名まえがある、ということを理解するところです。ウォーターと言おうとして、ウォ、ウォ、と言いつつ出るところです。そこもほんとうに感動的なのですが、今回、^①べつのことごとくとも印象に残りました。

サリバンさんと出会う前の彼女は、だれともコミュニケーションがとれない、閉ざされた世界にいたわけですから、まるで動物と同じで、いえ、動物も、群れのなかでマナーのようなものを教わって、そのなかのルールに従って行動するけれども、彼女は、そういう、人と生きる上でのルールのようなものを教わることができなかった。自分の思うようにならないとかんしゃくを起こして手が付けられなくなるので、みな、彼女を刺激しないように接していた。食事のときに椅子に座らないのはもちろん、歩き回って好き勝手にだれかの皿から手づかみで好きなものを取って食べるようなことをしていた。^②彼女に対する愛情と哀れみと諦めが、結局彼女をだめにするんだと言って、サリバン女史は、二人きりで食堂にこもり、何時間もの凄まじい取っ組み合いの末、とうとう彼女が椅子に座ってスプーンを持たせ、ナプキンをたたむことをさせるのに成功した。はらはらしながら外で待っていた母親は、彼女がナプキンをたたんだ、と聞いて、感動のあまり涙ぐみます。あの子が、ナプキンを、たたんだ、と何回か繰り返してします。ここもほんとうに感動的でした。母親のそれまでの不安と悲しみまで一度に押し寄せ、ああ、このひとは、たった一人で社会を相手に我が子を守ろうと頑張ってきたのだな、とわかるのです。ナプキンをたたむなんて、言ってみれば、どうでもいいようなことです。けれど、今まで獣の世界にいた我が子が、ここで、自分たちの群れに帰ってきた、そんな感動が、伝わってくるんですね。群れの一員としてやっていけるかもしれない、という微かな光が見えた瞬間でした。群れに入れない、入れる、それがこんなに絶望と希望を与えるものだということ。理屈ではなく、人間の本能のようなところで、それは生死を分けるようなものなのでしょう。個人の主義主張とは関係なく、それは、もう、どうしようもなく。ですから、みなさんのなかで、一匹狼でやっていけない自分、仲間に入れてもらおうと卑屈になる自分、ということに嫌気がさしているひとがいたとしたら、仲間に入れてもらいたいと思う気持ちは、あたりまえのことなのだと思いたいのです。それは、私たちの^③なのだから、と。

問題は、それが自分のほんとうに入りたい「群れ」や仲間でないのに、そういう人間の本能に急かされて、犬が上位の犬の機嫌をとろうとして、^④お腹を見せてひっくり返るような行動をとってしまったときの、自己嫌悪感、ですね。

まず言えるのは、生きるってそういう葛藤の連続ってこと。心から思っている言葉でないこと、相手を褒めるときも、自分がそう思っていたらいいんだけど、思ってもないのに、つい、相手の機嫌をとるようなことを言ってしまったり、やってしまったときの問題。そういう自己嫌悪に陥ってしまったら、それは若い頃はありがちなことなので、ああ、やっちゃったよー、しょうがないなあ、って、^⑤心のなかでためいきをつけていればいいのです。まあ、しかたがないです。

でも、それはだれにもわからない。それがわかっているのは、あなたしかいません。あなたのなかで、自分を見ている目がある。いちばん大切にしないといけないのは、そしてある意味で、いちばん見栄を張らないといけないのは、いいかっこしないといけないのは、じつは、他人の目ではなく、この、自分のなかの目です。

さて、ここから大切なことです。

そのとき、ああ、やってしまったよーとか、しかたがないなあ、とか、ためいきついているひとはだれ？

だれよりもあなたの事情をよく知っている。両親よりも、友だちよりも、いわんや先生たちよりもあなたのことをすべて知っている。あなたが、そういうことをせざるをえなかった、あなたの人生の歴史についてもだれよりも知っている。しかも、あなたの味方。いつだって、あなたの側に立って考えてくれている。

そう。あなたの、^⑥ほんとうのリーダーは、そのひとなんです。

それはさっき私が言った、「自分のなかの目」、でもあります。同じひとです。そのひとにぴたりついていけばいい。

自分のなかの、埋もれているリーダーを掘り起こす、という作業。それは、あなたと、あなた自身のリーダーを一つの群れにしてしまう作業です。チーム・自分。こんな最強の群れはない。これ以上にあなたを安定させるリーダーはいない。これは、個人、ということですよ。

そして、群れというのは本来、そういう個人が一人ひとりの考えで集まってできるものであるべきだと思っています。個人的な群れ、社会的な群れ、様々な群れがありますが、それに所属する前に、個人として存在すること。盲目的に相手に自分を明け渡さず、考えることができる個人。

じゃあ、どうやったら個人でいつづけられるか。自分のなかに自分のリーダーを掘り起こすって、どうやって？

一つには、自分でも受け入れ難いことをやってしまったとき、ああ、やっちゃったよーとか、自分を客観視する癖をつけることです。

批判する力をつける。様ざまに批判する力をつけるなかで、自分自身にももちろん、批判する目を向ける。批判って、注2 難癖なんくせをつけるとか、文句ばかり言う、ということとは違ちがいます。正しい批判精神を失った社会は、暴走していきます。批判することは、もつとよくなるはずと、理想を持っていてからできること。社会を愛する気持ちと反対のものではないのです。客観的な目を持つ。つまり、そういう視点から自分をも見つめる、筋肉のようなものをつける。その目は自分をよく見ているから、自分にできないような無理な要求はしない。ちよつと頑張ったらできるはず、という線が引ける。頻ひんぱんにそういうことをしているうちに、それはできます。それを意識するということがつまり、今言うところの、掘り起こす、という意味。そしてその目が、あなたの^⑦リーダー的役割をするものになる。

(梨木 香歩『ほんとうのリーダーのみつけかた』岩波書店 による)

注1 『奇跡の人』 II 視聴覚しちやうかくてき的な障がいを持っている少女ヘレン・ケラーを、家庭教師であるサリバン先生(女史)が人間らしい人生へと導いていく様子を描かいた作品

注2 難癖なんくせをつける II 何か欠点を見つけて非難すること

1 — 線① 「べつのことごとくとも印象に残りました」とありますが、「べつのこと」とはどのようなことですか。わかりやすく言い表した部分を文章中から三十字程度で探し、次の() にあてはまるように、初はめと終はりの三さん字じを書きぬきなさい。

() 三十字程度 () ということ

2 — 線② 「彼女に対する愛情と哀れみと諦めが、結局彼女をだめにする」とありますが、サリバン女史がそのように感じたのはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア ヘレン・ケラーはだれともコミュニケーションのとれない、閉ざされた世界にいたので、耳が聞こえず、目も見えず、口もきけなくなってしまったから
イ まるで動物と同じように刺激のない環境かんきやうで育てられたヘレン・ケラーは、食事のときに椅子に座らないのはもちろん、手づかみでものを食べていたから
ウ ヘレン・ケラーは、みなが気をつかうあまり、人と生きる上でのルールのようなものを教わるのができないまま生活していたから
エ 動物は群れのなかでマナーのようなものを教わって、それに従って行動するけれども、ヘレン・ケラーは人間なので、好き勝手にしていたから
オ ヘレン・ケラーは、自分の思うようにならないとかんしゃくを起こして手が付けられなくなるので、みなから、人間ではなく動物だと思われていたから

3 ③ にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 義務 イ 主義 ウ 社会 エ 本能 オ 理屈

話を二つ選び、記号で書きなさい。

ア 私は小学生のころおとなしくて、一人で過ごすのが好きだったの。図書館でいろんな人の自伝を読んでいると、自分の欠点や長所に気づけて、やりたいことがわかってきた。植物学者の牧野富太郎は奥様への感謝を込めてイネ科の草にスエゴザサという名前をつけたのですって。私は、自分から「やろう」と言えないのはよくないところだけれど、植物への感謝や思いやりを表すことができるのはいいところだから、お教室のお花の水やりを率先してやるようにしています。まわりの子たちが、だんだんいっしょに手伝ってくれるようになってきて、うれしいです。

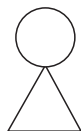
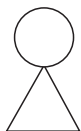
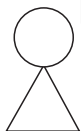
イ 私はずっとバスケットボール部の部長をしていました。背も高く声も大きいので、先輩はちょっと怖がっていただけみたいです。そんなに練習をしたことはないのに、はじめからシュートが得意で、スポーツ大会でも目立っていたから、そういう姿にあげられてうちの部を選んでもくれる人もいたそうです。顧問の先生は、そういうカリスマ性のある子のほうがリーダーに向いているとおっしゃっていました。だから、先生は私に全体へ指示を出すよう言われました。それを守って必ず私が指示を出して、そのおかげで部員も信頼してくれています。

ウ 私は困っている人を見ると放っておけない性格です。いじわるをしている男子を見ると許せなくて、いじわるをされている子に代わってやり返したこともあるの。ただ、客観的に見ると、いじわるをされる子が自分で言い返せないところにも問題があると思うから、次に同じようなことが起こったらどういう対応をすればよいかを考えてもらいました。その子は、「言い返すようにする」と言いながらもいざとなると泣いてしまうので、私は、いじわるな子にさらに仕返しをして止めました。そのあとは、クラスが静かになって担任の先生が喜んでくれたわ。

エ 私は社会問題にとっても興味があって、今いちばん注目しているのはSDGsです。世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題のような課題を世界の人みんなで解決していこうという目標なので、二〇三〇年までに国民全体でできることを、インターネットを通じて呼びかけしています。ときどき難しい質問や批判的な意見が届けられて、困ることがあります。でも、私はまだ子どもだから自分では実行できなくても仕方ないと思うので、気にせず、思いつくままに発信を続けています。家族は、「将来良いリーダーになるね」と言ってほめてくれます。

オ 私は小さいころから絵を描くのが好きで、一人で部屋にこもってお絵かきをしているときがいちばん楽しいです。でも、だれかに見せるのは恥ずかしいし、何か言われたらいやだから習いにはいきません。みんなで集まっているのを見ると、なんだか居心地がよくないから、一人でいられる場所をいつも探しています。こうやって自分の世界をつくっていると、私がこの世界のリーダーなのだと思えます。もっともとお気に入りのものだけを集めて、気分よく毎日を過ごせたらいいなと思います。

カ 私は将来、国際関係の仕事につきたいという夢を持っています。クラスのみんながアニメやマンガなどの話で楽しそうに盛り上がっている間も、自分の席で勉強しています。特に英語は大切だと思いい、学校が終わったあとは、近所に住んでいる外国人の友達とよく遊んでいます。クラスメイトから、へんなやつ、浮いている、とひやかされることもあります。姉から、「仲良くなるためには、みんなと合わせたいほうがいいよ。」と言われたこともありましたが、でも、英語の成績で学年一位になって校内インタビューを受けたとき、がんばっている理由を話したら、からかう人が減り、クラスの中で、自分の夢に向かって努力を始める人が増えました。



⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

中洞牧場はスケールが大きい。野球場のグラウンド80個分に相当する80ヘクタールの山林に約80頭の乳牛を放し飼いでいる。厳しい冬も例外ではない。標高700〜850メートルの北上山地はときに零下20℃を下回ることもあるが、牛たちは昼夜問わず、たくましく暮らしている。

早朝4時過ぎ、中洞さんはトレッドマークの黄色い注ぎジープに乗って動き出した。「日が昇ったら起きて、日が沈んだら寝る。昔の人はみんなそうやって生きていた。だから電気もいらなかっただろ」。ジープで向かった先は荒れ果てた山林だった。50ヘクタールの山林を新たに開墾して整備し、ここでも牛を育てるといふ。

50ヘクタールの山林を開墾する。こんな途方もない面積の荒れ果てた山林を誰が開墾するのか。業者に頼んだら莫大な費用がかかるだろう。中洞さんに尋ねると「牛がやるんだよ」と答えた。鬱蒼と草木が生い茂る山林にパワーシヨベルで道をつくるのだという。中洞さんはジープからパワーシヨベルに乗り換えると、巧みに操りながら太い木をなぎ倒し、道をつくっていく。道がある程度整うと、最後に周辺を巡らせるようにして注ぎ電柵を張る。そこに牛を放つ。

藪の中に放たれた牛を見に行った。牛が野生化しているようで、異様な光景だった。牛たちは木の葉や実、野草など食べられるものは何でも食べ、やがて食べ尽くす。藪の中の植物が食べ尽くされると、日差しが地面に注がれ、野シバが生い茂る。荒れ放題だった山林は美しい草原となり、牛たちが穏やかに暮らす場となる。野シバの若芽は牛の大好物だ。そして、野シバを育む土壌を肥やすのは、自らが排泄する糞尿なのだ。

中洞牧場には「臭い」がない。大地に排泄された糞尿はたちまち微生物たちの餌となり、分解され、土を肥やす。そして青々した野シバになり代わるのだ。だから臭わない。

牛舎飼いで、糞尿は完全にお荷物的存在だ。大量の糞尿を処理するのに費用がかかり、糞尿処理施設の建設にもかなりの投資をしなければならぬ。通常、牛舎の5倍の敷地が必要とされる。一方、中洞さんが実践してきた山地酪農は、糞尿処理代はかからないばかりか、野シバなどの餌を育てる土を豊かにしてくれる貴重な資源になっている。ただし「この方法では山の面積に頭数を制限されるという弱点もある」と、中洞さんはいふ。なぜなら、牛の餌は山に自生する植物だけだからだ。

しかし、^①山地酪農の本質はこの弱点にこそ隠されている。人間と牛が未利用の植物資源を牛乳という恵みに変える山地酪農は、自然の循環を活用できる範囲内においてのみ成立し、結果的に持続可能な酪農になりうると中洞さんは考えている。この点で、牛

の体の仕組みと生産量を人工的にコントロールしようとする近代酪農の立場と決定的に②一線を画する。中洞さんはこう語る。「日本の国土は7割が山林だがほとんど手入れされずに荒れ放題になっている。人間が木の③間伐などの手入れをし、光を入れてあげれば草が育ち、それを牛が食べ、山を保全してくれる。間伐した木はお金にもなる。木が育つまでは山地酪農で生計を立てられれば林業と両立できるはずだ」。

大半の酪農家は、国や農協の指導に沿って、牛舎による近代酪農を押し進めてきた。その近代酪農が今、③厳しい局面に立たされている。中洞さんもその④凋落ぶりを肌で感じている。33年前に中洞さんがこの地に⑤入植したころ、同じ岩泉町には300戸の酪農家があったが、今では30戸に減り、後継者がいるところはほとんどない。

なぜ、こんなことになってしまったのだろうか。中洞さんは、自然の仕組みを④にコントロールしようとする近代酪農の根本的あり方に疑問を投げかける。山地酪農が自然の力に委ねるのを基本理念とするのに対し、近代酪農は人間と⑤の力で自然を管理・支配することを目指す。その結果、管理に必要なコストがかさみ、経営を圧迫していると中洞さんはみている。糞尿処理代に加え、大きな負担となって酪農家に重くのしかかっているのが餌代と治療費だ。⑥搾乳量を増やすため、穀物などを原材料とする⑦輸入濃厚飼料を与えている。確かに搾乳量は増えるが、結果、輸入飼料代の値上がりで苦しめられているのだ。また、狭い牛舎で不健康な密飼いをしているので、病気になるやすく、治療費もバカにならない。牛舎で密飼いする場合の牛の平均寿命は6〜7歳だが、受精も分娩も自然任せでストレスなく育つ中洞牧場では20歳近くまで長生きする牛もいる。

近代酪農では、母牛が出産するとすぐに子牛と引き離される。売るべき牛乳を子牛に飲まれてはたまらないからだ。一方、中洞牧場では人間と同じように産まれたての子牛は母牛の乳に吸い付いて、離乳のときまで一緒に過ごす。1リットルの牛乳をつくるには、400〜500リットルの血液が必要で、母牛が命を削って子牛のためにつくるものを人間がおすそ分けしてもらっているという姿勢を中洞さんは貫いてきた。非効率な酪農ゆえに搾乳量は少ないが、その価値を認めた消費者が高い値段で中洞牧場の牛乳を購入している。

1987年までは、自然放牧で酪農を営むことは、それほど珍しい光景ではなかった。しかしこの年以降、⑥状況は一変する。牛乳の原料となる生乳を農協に出荷する際の取引基準が「⑧乳脂肪率3.5%以上」と改訂されたのが、日本の酪農の大きな転換点となった。この基準を満たさない生乳は半値で買い取られ、自然放牧は事実上、退場を余儀なくされる。というのも、自然放牧で育つ牛は春から夏にかけて青草をたくさん食べるころ、乳脂肪率が3.5%を下回ることが多く、その基準をクリアするためには輸入濃厚飼料を食べさせるしかなかったのだ。

すでに高度経済成長期には、濃厚飼料を与えて牛舎飼いする近代酪農のスタイルが広がっていた。中洞さんはそのスタイルに抗い、自然の中で健康に育った牛のミルクを看板に隣町の宮古市に通い、個人宅に営業をかけ、宅配の販路を開拓していった。中洞牧場の牛乳ファンはこうして少しずつ足元で広がっていった。

中洞さんは近代酪農を続けている限り、日本の酪農に未来はないと断言する。一部でも放牧を取り入れている酪農家は全体のわずかに過ぎず、中洞牧場のような通年昼夜自然放牧となると全国でも数戸しかない。中洞さんの志の元に全国各地から20代を中心とする若者が集まり、寝食を共にしながら山地酪農を学び、数年すると各地に飛び、山地酪農を独自に始めている。

一次産業は食べものだけではなく人間も育てる。中洞さんの信条だ。「人間も自然界の一部に過ぎず、命ある生きものなんだぞ」ということを肌で体感してもらいたい。牛を育てる中洞牧場のもうひとつの顔は、人間を育てる中洞学校なのであった。

(高橋博之『人と食材と東北と』オレンジページによる)

注1 ジープ 舗装されていない道での走行を得意とする自動車の種類

注2 電柵 電流が流れている金属線を張ってある柵。家畜の逃亡や、害となる生き物の侵入を防ぐためのもの

注3 間伐 森林の地表に光を届けるため木を間引きすること

注4 洞落 落ちぶれること

注5 入植 開拓する土地に入って生活すること

注6 搾乳量 牛から搾られた生乳の量

注7 輸入濃厚飼料 エネルギ量が高く、タンパク質を多く含む、外国から輸入した餌

注8 乳脂肪率 乳に含まれる脂肪の割合

――線①「山地酪農の本質はこの弱点にこそ隠されている」とありますが、これはどのような意味ですか。次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 山地酪農では糞尿の処理代や餌代がかからないという本質が、逆に山地酪農での欠点になっている。

イ 山地酪農の欠点である多くの牛が飼えないということは、結果的に農家にかかる負担を少なくすることになる。

ウ その地の植物資源が有限で飼育できる牛の数や生乳の生産量に限界があるから、山地酪農はその範囲で持続性が望める。

エ 糞尿処理施設のための敷地や牛舎のための土地を合わせた面積よりさらに広い土地が、本来、山地酪農には必要となる。

オ 山地酪農は頭数を制限されるが、その分搾乳量が多くなるので、見かけによらず本質的に生産性が高いと言える。

2 — 線②「一線を画する」とありますが、この表現と類似の意味と考えられるものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 隣り合わせである

イ 似ている部分がある

ウ 正反対である

エ 異なっている部分がある

オ 共通している

3 — 線③「厳しい局面に立たされている」とありますが、筆者はなぜ「厳しい局面」になったと考えていますか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 後継者がおらず、酪農家を継ぎたいと考える人がいないから

イ 治療費や餌代がかかりすぎて、利益があまりでないから

ウ 餌代がかかるので、新しい餌を探さなければならぬから

エ 牛が早く死んでしまうので、次々に新しい牛を飼わなければならないから

オ 自然の恵みをコントロールすることに限界を感じているから

4 — ④・⑤にあてはまる語の組み合わせを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ④人工的・⑤科学技術

イ ④運命的・⑤先進機械

ウ ④文明的・⑤日本経済

エ ④意図的・⑤国際支援

オ ④開発的・⑤化学飼料

5 — 線⑥「状況は一変する」とありますが、どのようになったのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 夏場は生乳の出荷がでなくなりました。

イ 日本の酪農業が、一斉に不況になった。

ウ 生乳の概念が変わり、牛乳の味が変わった。

エ 自然放牧では、採算をとることが難しくなった。

オ 輸入濃厚飼料を与える近代酪農が導入された。

